

令和8年度

講義概要

(シラバス)

長野県福祉大学校

介護福祉学科

目 次

教科目及び目的	1
社会の理解	3
介護の基本A	4
介護の基本B	5
介護の基本C	8
コミュニケーション技術	9
生活支援技術A	11
生活支援技術B	13
生活支援技術C	15
生活支援技術D	18
介護過程A	19
介護過程B	20
介護過程C	21
介護総合演習	22
介護実習	24
こころとからだのしくみ	25
発達と老化の理解	27
認知症の理解	28
障害の理解	30
医療的ケアⅠ	31
医療的ケアⅡ	32
医療的ケアⅢ	33
医療的ケアⅣ	34

教科目及び目的

領域	教科目		単位数	目的
人間と社会	社会の理解	講義	2	生活の基本となる家族、組織、社会の概念を理解し、社会福祉に関連した諸制度や基本的な知識を学ぶ。
介護	介護の基本A	講義	2	介護の基本となる理念を学び、自立支援介護の基盤となる知識、技術を習得する。また介護実践における安全、リスクマネジメントについて理解する。
	介護の基本B	演習	4	
	介護の基本C	講義	2	
	コミュニケーション技術	演習	2	介護を必要とする人の障害特性を理解し、対象者や家族とのコミュニケーションの意義や技法、チームにおけるコミュニケーションについて理解する。
	生活支援技術A	講義	3	介護を必要とする人の障害特性や生活歴を理解し、障害特性に応じた本人主体の生活が継続できるよう、知識と技術を身に着ける。ICFの視点や根拠に基づいた介護実践について理解を深める。
	生活支援技術B	演習	4	
	生活支援技術C	演習	3	
	生活支援技術D	実習	1	
	介護過程A	講義	2	本人の望む生活の実現に向けて、介護過程の意義・目的及び一連のプロセスについて基礎的な学びを深める。その上で個別の事例を通じて、対象者の状態に応じた介護過程の展開を行い、意義や方法を理解する
	介護過程B	演習	1	
	介護過程C	演習	3	
	介護総合演習	演習	2	各教科で学ぶ知識や技術を統合する。また介護実践の科学的探究を通して学びを深める。
	介護実習	実習	5	実習を通して、個別ケア、地域生活支援、多職種協働介護過程の展開といった介護実践力を身につける。
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	講義	2	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理・人体の構造や機能を理解する。
		演習	1	
	発達と老化の理解	講義	2	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を理解する。
	認知症の理解	講義	2	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアを理解する。
		演習	1	
障害の理解	演習	1	障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域を含めた周囲の環境への支援を理解する。	
医療的ケア	医療的ケア I	講義	1	医療的ケア（喀痰吸引と経管栄養）について背景の理解や個人の尊厳を守り、安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
	医療的ケア II	講義	2	
	医療的ケア III	講義	2	
	医療的ケア IV	講義	1	
合計			51	

教科目名	単位数	時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
社会の理解	2	30	講義	必修	1年	通年	林 義也

【授業の概要】

生活の基本となる、家族、社会、組織地域社会の概念を理解する。その上で、生活支援のための制度、施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉制度やその他介護実践に関連する諸制度について学ぶ。レジュメ、授業資料に沿って講義形式にて授業を進めていく。

【学習到達目標】

- 1 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。
- 2 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度・施策を理解する。
- 3 わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する学習とする。
- 4 高齢者福祉の基本的な仕組みと介護保険制度の内容及び、障害者福祉制度の基本的仕組みと障害者総合支援法の内容について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。
- 5 人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方と仕組みの基礎的知識を習得する。

【成績評価方法】

- 1 筆記試験結果
- 2 授業態度
- 3 出欠席状況

【テキスト（教科書）・参考図書】

- 1 テキスト（教科書）
介護福祉士養成講座 2 社会の理解 （中央法規）
- 2 参考図書

【実務経験】

社会福祉士、介護支援専門員として障害者施設、高齢者施設での実務経験あり。

教 育 内 容	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
	1	生活と社会福祉	個人、家族、社会の単位で人間を捉え、人間と社会の関わりについて理解する。	
	2	社会保障の基礎的理解	社会保障制度の概要、基本理念、歴史、変遷について理解する。	
	3	地域共生社会に向けた制度や施策	地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方や、制度、施策について理解する。	
	4	高齢者福祉と介護保険制度の基礎的理解①	高齢者福祉及び介護保険制度成立の背景や目的について理解する。	
	5	高齢者福祉と介護保険制度の基礎的理解②	高齢者福祉制度及び介護保険制度の基本的な仕組みや運用について理解する。	
	6	高齢者福祉と介護保険制度の基礎的理解③	高齢者福祉制度及び介護保険制度の対象や種類、サービスの内容について理解する。	
	7	障害者総合支援法の基礎的理解	障害者の自立および制度創設の目的と動向について理解する。	
	8	障害者福祉及び障害者総合支援法の基礎的理解	障害者福祉制度の仕組みや運用について理解する。	
	9	介護実践に関わる諸制度	介護実践に必要とされる観点から、諸制度について基礎的知識を習得する。	
	10	社会保障制度の実践的理解	社会保障制度の仕組みや運用について理解し、制度の課題について考える。	
	11	介護保険制度の実践的理解	介護保険制度にかかわる組織と役割、介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
	12	障害者福祉及び障害者総合支援法の実践的理解	障害者福祉制度を運用する各組織の役割を理解し、その活用の仕方を理解する。	
	13	介護実践に関わる諸制度の理解	尊厳と自立に関わる、権利擁護、個人情報保護等、介護実践に関連する諸制度について理解する。	
	14	社会福祉にかかわる制度・政策の理解	様々な関連法制度を生活支援に活用する力をつける。	
15	まとめ	評価、学習のまとめ		

教科目名	単位数	時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
介護の基本A	2	30	講義	必須	1年	通年	北沢 将広
【授業の概要】 介護の基本となる理念を学び、介護福祉士としての倫理に基づき、介護を必要とする人を理解する。生活の継続性を支援するしくみ、利用者の尊厳の保持、自立支援介護の基盤となる知識・技術を習得する。授業資料に沿って講義形式で授業を進め、必要に応じてグループワークを実施する。							
【学習到達目標】 1 尊厳の保持や自立支援という介護の基本となる理念を理解し、専門職として必要な倫理観、基本的な考え方を学ぶ。 2 介護の歴史や介護問題の背景を理解し、複雑化、多様化する介護福祉士が置かれている社会状況を理解する。 3 地域や施設・在宅等、介護が必要とされる場の理解と介護福祉士の役割と機能について理解する。 4 介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を養う。							
【成績評価方法】 1 筆記試験結果 2 授業態度 3 出欠席状況							
【テキスト（教科書・参考図書）】 1 テキスト（教科書） 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ（中央法規） 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ（中央法規） 2 参考図書							
【実務経験】 北沢講師：社会福祉士として施設での実務経験あり。							
教 育 内 容	回数	授業テーマ及び内容		各授業のねらい			備考
	1	介護福祉士の基本となる理念		介護・介護福祉士に対するイメージを膨らませ、介護の基本理念と介護福祉士の基本的な考え方を理解する。			
	2						
	3	介護福祉の歴史		歴史的な観点から介護の意義とは何かを理解する。			
	4	介護福祉士の機能と役割		介護福祉士の役割と機能を支える、法律や制度について理解する。			
	5	介護福祉士の倫理①		介護と人権、介護の持つ倫理性、介護福祉士の倫理性について理解する。			
	6	介護福祉士の倫理②		身体拘束と虐待の定義及び専門職としての職業倫理と法令遵守について学ぶ。			
	7	自立に向けた介護①		自立支援の具体的な考え方を理解し、意思決定を支える方法について学ぶ。			
	8	自立に向けた介護②		ICFやストレングスの視点を介護の実践に応用する視点を学ぶ。			
	9	介護福祉を必要とする人の理解①		私たちの生活の理解、介護福祉を必要とする人の暮らしを理解する。			
	10	介護福祉を必要とする人の理解②		その人らしさ、生活ニーズの多様性について理解する。			
	11	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ		地域共生社会及びフォーマル・インフォーマルサービスについて理解する。			
	12	介護における安全の確保とリスクマネジメント		介護における安全の確保 リスクマネジメントとは何かについて学ぶ。			
	13	協働する多職種の機能と役割		多職種連携・協働の必要性及び目的と効果について学ぶ。			
	14	介護従事者の安全		働く人の健康や生活を守る法制度及び介護に従事することで生じやすい健康問題について学び、健康管理について理解する。			
15	まとめ		評価、学習のまとめ				

教科目名	単位数	時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
介護の基本B	4	120	演習	必須	1年	通年	田丸美咲、木澤千波 遠山由希、葛城 卓真

【授業の概要】

介護を必要としている人たちの自立を支援するための環境整備や介護予防等の意義や方法を理解し、その人たちを支える社会の仕組みや、地域連携につながる支援制度について学ぶ。

【学習到達目標】

- 1 ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーションの意義や方法について学ぶ。
- 2 介護を必要とする人の個性に対応するために、生活の多様性や社会とのかかわりを理解できるようにする。
- 3 介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル、インフォーマルな支援を理解できるようにする。

【成績評価方法】

- 1 筆記試験結果
- 2 授業態度
- 3 出欠席状況

【テキスト（教科書・参考図書）

- 1 テキスト（教科書）
 介護福祉士養成講座 1 人間の理解（中央法規）
 介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ（中央法規）
 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ（中央法規）
 よくする介護を実践するためのICFの理解と活用（中央法規）

【実務経験】

葛城講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。
 田丸講師：看護師として病院での実務経験あり。
 木澤講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。
 遠山講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。

	回数	授業テーマ及び内容	各授業のねらい	備考	
教	1	介護を必要とする人の理解①-1	高齢者の心身、社会的状況について実践を通して理解する。	高齢者疑似体験計画	
	2				
	3			高齢者疑似体験	
	4				
育	5	介護を必要とする人の理解②	様々な場における介護活動の場を理解する。	施設調べ	
	6				
内	7	介護を必要とする人の理解③-1	高齢者の生活史を理解する。	歌集づくり	
	8				
容	9	介護を必要とする人の理解①-2	疑似体験で学んだことをまとめ、発表することで、高齢者について理解を深める。	疑似体験まとめ、発表	
	10				
	11			高齢者の生活史を理解する。	歴史
	12				

回数	授業テーマ及び内容	各授業のねらい	備考	
教	13 介護を必要とする人の理解③-2	高齢者の生活史を理解する。	歌集づくり	
	14			
	15 介護を必要とする人の理解④-2	高齢者の生活史を理解する。	歴史まとめ	
	16			
	17 人間の理解①	人間の尊厳と人権・福祉理念について理解する。	葛城①	
	18			
	19 介護を必要とする人の理解④-3	高齢者の生活史を理解する。	歴史 発表資料作成	
	20 介護福祉士の基本となる理念①-2	社会人としての基本的マナー、態度を学び、介護人材としてのキャリアパスを理解する。	コミュニケーション ズアイ	
	21			
	22 人間の理解②	介護を必要とする人の自立と自立支援について理解する。	葛城②	
	23			
	24 介護の仕事を理解する①	介護の仕事について理解する。	ジョブカフェ	
	25 介護の仕事を理解する②	介護の仕事、社会福祉協議会について理解する。	岡谷社協	
	26			
	27 介護を必要とする人の理解④-4	高齢者の生活史を理解する。	歴史 発表資料作成	
	28			
	育	29 介護を必要とする人の理解④-5	高齢者の生活史を理解する。発表資料に基づき、プレゼンテーションの方法を学ぶ。回想法について理解を深め、実践力を養う。	回想法
		30		
31				
32				
33 介護を必要とする人の理解⑥-1		ケアコンについて（企画）		
34 介護を必要とする人の理解⑦-1		高齢者施設でのレクリエーションについて理解する。	葛城③	
35				
36			準備	
37 介護を必要とする人の理解⑤-3		認知症カフェに参加し、利用者と交流する。		
38			実践	
39 介護を必要とする人の理解⑦-2		高齢者施設でのレクリエーションについて理解する。	葛城④	
40				
容				

回数	授業テーマ及び内容	各授業のねらい	備考
41	介護を必要とする人の理解⑥-2	ケアコンについて（発表・撮影・編集）	
42			
43			
44			
45	自立に向けた介護②	ICFの考え方、活用について理解する。	大谷
46			
47			
48			
49	自立に向けた介護①-1	自立に向けた生活を支えるための福祉用具の活用について理解する。	介護センター花岡見学
50			
51	介護を必要とする人の理解⑧	ポジショニングについて理解する。	葛城⑤
52			
53	自立に向けた介護①-2	自立に向けた生活を支えるための福祉用具の活用について理解する。	
54			
55	介護を必要とする人の理解⑥-3	啓発グッズ作成、ケアコン審査について	
56			
57	自立に向けた介護①-3	福祉機器展に参加し福祉用具について理解を深める。	
58			
59	介護を必要とする人の理解⑨	まとめ	
60	介護の仕事を理解する③	社会人として働く心構えができる。	マイナビ

教科目名	単位数	時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
介護の基本C	2	30	講義	必須	1年	通年	金 日秀 松山 徹

【授業の概要】
介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。

【学習到達目標】

- 1 多職種協働における介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解できるようにする。
- 2 チームアプローチの意義、目的、具体的な展開をとおして、多職種連携の意義、課題を理解する。
- 3 介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できるようにする。
- 4 介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できるようにする。

【成績評価方法】

- 1 筆記試験結果
- 2 授業態度
- 3 出欠席状況

【テキスト（教科書・参考図書）】

- 1 テキスト（教科書）
介護福祉士養成講座 1 人間の理解（中央法規）
介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ（中央法規）
介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ（中央法規）
- 2 参考図書

【実務経験】
金 講師：認定プロコーチ、キャリアコンサルタントとして実務経験あり。
松山講師：理学療法士として病院での実務経験あり。

回数	授業テーマ及び内容	各授業のねらい	備考
1	介護従事者の安全	介護者の腰痛予防の原則や考えを理解して、対応方法を身に着ける。	松山
2			
3	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎①	必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能について	金
4			
5	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎②	組織におけるコミュニケーションについてOJT、コーチング、スーパービジョン等	金
6			
7	介護実践におけるチームマネジメント①	人材の育成や活用等の人財管理についてリーダーシップ、フォローアップシップ、PDCAサイクル等	金
8			
9	介護実践におけるチームマネジメント②	自己研鑽のためのチームマネジメント アサーション等	金
10			
11			金
12			
13	介護実践におけるチームマネジメント③	介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。	金（まとめ）
14	介護の総合理解⑦	労働に関する法律を理解する。	松山
15			

教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
コミュニケーション技術	2	60	演習	必修	1年	通年	藤森 朋美 有賀 良夫

【授業の概要】
 対象者や家族との支援関係の構築や、チームケア実践におけるコミュニケーションの意義や技法を学ぶ。また、様々な障害の特性を理解し、支援方法を学び、実践的なコミュニケーション能力を養う。
 資料に沿って授業を進め、必要に応じてグループワークを実施する。

【学習到達目標】
 1 対象者との支援関係構築や、意思決定を支援するための基本的なコミュニケーション能力を養う。
 2 対象者とその家族の状況を理解し、家族支援に必要な基本的なコミュニケーション能力を養う。
 3 障害特性を理解し、障害に応じた基本的なコミュニケーション能力を養う。
 4 チームケアに必要な情報共有の意義を理解し、情報のまとめ方や管理について学ぶ。

【成績評価方法】
 1 筆記試験結果
 2 授業態度
 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 (中央法規)
 2 参考図書

【実務経験】
 藤森講師:介護福祉士として高齢者施設での実務経験あり。
 有賀講師:介護福祉士として高齢者施設での実務経験あり。

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教	1	介護におけるコミュニケーションの基本	対人コミュニケーションについて意義と目的を理解する。 信頼感を得るためのコミュニケーション、非言語コミュニケーションについて理解する。	藤森
	2			
	3			
	4			
育	5	介護におけるコミュニケーションの役割(傾聴・受容・共感・質問の技法)	語調・表情・状況から話を「聴く」ことについて理解する。 閉ざされた質問、開かれた質問について理解し、習得する。	
	6			
内	7	障害の特性に応じたコミュニケーション①	コミュニケーション障害について理解する。 利用者の特性に応じたコミュニケーションについて理解する。	
	8			
	9	障害の特性に応じたコミュニケーション②	コミュニケーション障害について理解する。 利用者の特性に応じたコミュニケーションについて理解する。	
	10			
	11			
	12			
容	13	介護を必要とする人とのコミュニケーション①	人間はコミュニケーションの欲求を絶え間なく持ち続けていることを認識し、コミュニケーションの際に身につけておかなければならない技術を理解する。	
	14			
	15	介護を必要とする人とのコミュニケーション②	複数の利用者がある場面でのコミュニケーションの技法について理解する。	
	16			

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教	17	介護における家族とのコミュニケーション	利用者と家族の意向を調整する技法を理解する。 演習、ロールプレイを通して、利用者・家族とのコミュニケーションのポイントを習得する。	藤森
	18			
	19			
	20			
育	21	介護を必要とする人とのコミュニケーション③	介護における援助的コミュニケーションについて理解する。	有賀
	22			
内	23	介護におけるチームのコミュニケーション①	介護における記録の意義、目的について理解し、その管理、共有化、活用について学ぶ。	
	24			
	25	介護におけるチームのコミュニケーション②	組織における「ほうれんそう」の重要性を理解する。	
	26			
容	27	介護におけるチームのコミュニケーション③	介護におけるチームのコミュニケーションとは何か、その目的について学ぶ。	
	28			
	29	会議の意義・目的、方法	模擬会議の実施。会議を行う場合の運営方法と留意点について理解する。	
	30			

教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
生活支援技術A	3	45	講義	必修	1年	通年	宮嶋 武 鎌田晴之
【授業の概要】 尊厳の保持や自立支援、権利擁護の視点を持ち、生活の豊かさの観点から本人主体の生活が継続できるよう、自立に向けた住居環境や福祉用具について学ぶ。 資料に沿って授業を進め、必要に応じてグループワークを実施する。							
【学習到達目標】 1 本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた知識・技術を習得する。 2 福祉用具を活用する意義や目的を理解し、選択・活用する知識・技術を習得する。 3 高齢者、障害者が快適に生活するための住環境の知識、技術、方法を習得する。							
【成績評価方法】 1 筆記試験結果 2 授業態度 3 出欠席状況							
【テキスト(教科書)・参考図書】 1 テキスト(教科書) 介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I (中央法規) 国試ナビ2027 2 参考図書							
【実務経験】 宮嶋講師:理学療法士として病院での実務経験あり。 鎌田講師:住環境コーディネーターとして、住宅改修等の実務経験あり。							
教 育 内 容	回数	授業内容		各授業のねらい			備考
	1	居住環境の整備① 住まいの役割と機能		住まいの役割を理解する 住まいと地域のつながりの形成の意義を理解する			鎌田
	2						
	3	自立に向けた生活支援の理解		施設見学を通して自立に向けた生活を支えるための介護について理解する。			施設見学
	4						
	5						
	6						
	7	居住環境の整備② 生活空間		生活空間を生活行為や起居様式とのかかわりで見とらえ、生活空間を整備する際の留意点を理解する			鎌田
	8						
	9	生活支援の理解①		リハビリテーションの理念、意味と定義、プロセス、リハビリテーション専門用語について理解する。			宮嶋
	10						
	11	居住環境の整備③ 快適な室内環境		快適な室内環境を整備するための基本的事項をおさえたうえで、加齢変化にともなって注意が必要となる点を理解する。			鎌田
	12						
	13	生活支援の理解②		自立に向けた介護に役立つADL介助法を理解する。			宮嶋
14							

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教	15	生活支援の理解③	日常生活と社会生活の能力の維持・拡大への支援、介護予防について理解する。	宮嶋
	16			
育	17	安全に暮らすための生活環境	住宅内における日常安全の重要性と対応策について理解する	鎌田
	18	多職種との連携	居住環境の整備における多職種連携の必要性	
内	19	生活支援の理解④	病院、施設におけるリハビリテーションについて理解する。	宮嶋
	20			
容	21	生活支援の理解⑤	地域及び在宅におけるリハビリテーションについて理解する。	宮嶋
	22			
	21	生活空間と介護、居住環境のアセスメント	高齢者・障害者の住環境について、総合的理解を深める。	鎌田(まとめ)

教科目名		単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
生活支援技術B		4	120	演習	必須	1年	通年	木澤千波 神戸 幸徳
【授業の概要】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識と技術を身につける。								
【学習到達目標】 1 介護の基本的技術とその原理を身につけると共に、介護技術の根拠を理解する。 2 対象者の能力を発揮しながら自立に向けた生活支援技術の基本を習得する。 3 介護に適した各種福祉機器及び住設備機器について、適切な使用方法を身につける。								
【成績評価方法】 1 筆記試験結果 2 授業態度 3 出欠席状況								
【テキスト(教科書)・参考図書】 1 テキスト(教科書) 介護福祉士養成講座6、7 生活支援技術 I、II (中央法規) 2 参考図書								
【実務経験】 神戸講師:介護福祉士として、高齢者施設での実務経験あり。 木澤講師:介護福祉士として、高齢者、障害者施設での実務経験あり。								
教 育 内 容	回数	授業内容		各授業のねらい			備考	
	1							
	2	介護技術の基本とマナー		授業の進め方、介護技術の基本とマナーを理解する。				
	3	ボディメカニクスの理解		ボディメカニクスの原理を理解する。				
	4							
	5	口腔の清潔		口腔の構造と機能を理解する。 口腔ケアの必要性を理解し、手法を習得する。			神戸	
	6							
	7	自立に向けた居住環境の整備①		衛生管理の意義を理解する。 ベッドメイキングの手法を習得する。				
	8							
	9							
	10	自立に向けた食事の介護		食べることのメカニズムを理解する。 食事介助体験から、介助の手法を習得する。 誤嚥予防について理解する。			神戸	
	11							
	12	自立に向けた移動の介護① (ベッド上での体の移動、体位変換)		実践を通してボディメカニクスと介護の原則を理解する。				
	13							
	14	自立に向けた移動の介護② (起居介助、立ち上がり)		実践を通してボディメカニクスと介護の原則を理解する。				
	15							
	16	自立に向けた排泄の介助①		排泄のメカニズムと排泄障害について理解する。			神戸	
	17							
	18	自立に向けた食事の介護②		食べやすくする工夫 飲み込みやすい食事について理解する				
	19							
	20	自立に向けた排泄の介助②		排泄補助機器について理解し、排泄介助の手法を習得する。			神戸	
	21							
	22	自立に向けた身じたくの介護①		身じたくの意義を理解する。 衣服着脱の介助方法を理解する。				
	23	自立に向けた移動の介護③ (車椅子での移動)		車椅子の基本構造と使用法を理解し、介助法を身につける。				
	24							
	25	自立に向けた入浴・清潔保持の介助①		清潔保持の必要性と意義について理解する			神戸	
26	生活支援の理解①		事例を通して適切な介助方法を理解し習得する。 (高齢者施設実習まとめ)					

教	27	自立に向けた入浴・清潔保持の介助②	事例を通して適切な排泄介助方法を理解し習得する。	神戸
	28			
	29	自立に向けた移動の介護④ (ストレッチャーへの移乗と移動)	ボディメカニクスを理解し、安全で安楽な移動の技法を習得する。	
	30	自立に向けた入浴・清潔保持の介助③	入浴の効果と危険性について理解し入浴介助の手法を習得する。	神戸
31				
	32	自立に向けた移動の介護⑤ (床からの起居動作・杖歩行)	ボディメカニクスをふまえた起居動作介助の技法を理解し習得する。歩行の原理を理解し歩行介助の技法を習得する。福祉用具の種類と特性、選択と利用方法について理解する。	
	33			
	34	生活支援の理解①	事例を通して適切な介助方法を理解し習得する。	
	35	自立に向けた入浴・清潔保持の介助④	訪問入浴介護サービスについて理解する。	
36				
	37	生活支援の理解②	事例を通して適切な介助方法を理解し習得する。	
	38	生活支援の理解③	事例を通して適切な介助方法を理解し習得する。 (地域生活支援実習まとめ)	
39				
	40	生活支援の理解④	事例を通して適切な介助方法を理解し習得する。	
	41			
	42	生活支援の理解⑤	事例を通して適切な介助方法を理解し習得する。 (ベッドメイキングテスト)	
	43			
	44	生活支援の理解⑥	事例を通して適切な介助方法を理解し習得する。	
	45			
	46	生活支援の理解⑥	事例を通して適切な介助方法を理解し習得する。	
	47			
内	48	生活支援の理解⑦	事例を通して適切な介助方法を理解し習得する。 (実技確認テスト)	木澤 神戸
	49			
	50	生活支援の理解⑧	実技確認、解説	
	51	休息・睡眠の介護	睡眠の維持と目的を理解する。 不眠時の介護について理解する。	神戸
	52	自立に向けた移動の介護⑤ (安楽な姿勢)	寝床上での体位の種類と特性を理解し、安楽な姿勢の手法を習得する。褥瘡のメカニズムと予防法について理解する。	
	53			
容	54	自立に向けた排泄の介助③	排泄介助(おむつ)の手法を習得する。	
	55	人生の最終段階における介護	死について考える機会とする。 終末期の精神的、身体的援助について理解する。 臨終時及び死後の対応について理解する。	神戸
56				
	57	生活支援の理解⑨	認知症の世界を理解する。	
	58			
	59	生活支援の理解⑩	実習前後の総復習の場とする。 (施設実習後まとめ)	
	60	生活支援の理解⑪	国家試験を意識し、生活支援技術全般に関する知識を深める。	

教科目名		単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
生活支援技術C		3	90	演習	必修	1年	通年	藤森憲司 藤村瑞穂 登内秀子 高山美佳 田丸美咲
1 障害特性に応じ、本人主体の生活が継続できるよう、基本的知識(医学的・心理的側面)から理解する。 2 障害特性に応じ、根拠に基づいた介護実践をができるための知識、技術を習得する。								
【学習到達目標】 1 対象者の障害特性に応じた、基本的知識(医学的・心理的側面)の知識・技術・態度を習得する。 2 対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための、障害特性に応じた具体的な支援内容・方法・技術を理解し習得する。 3 人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解できる。								
【成績評価方法】 1 筆記試験結果 2 授業態度 3 出欠席状況								
【テキスト(教科書)・参考図書】 1 テキスト(教科書) 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ (中央法規) しくみと病気がわかるからだの事典(成美堂) 2 参考図書								
【実務経験】 藤森講師：薬剤師として薬局での実務経験あり。 登内講師：看護師として病院での実務経験あり。 高山講師：看護師として病院での実務経験あり。 藤村講師：作業療法士として病院での実務経験あり。 田丸講師：看護師として病院での実務経験あり。								
	回数	授業内容		各授業のねらい			備考	
教	1	自立に向けた生活支援の理解 生活支援技術Ⅰー①		視覚障害に応じた介護 視覚障がい者体験(屋内白杖体験)			田丸	
	2	自立に向けた生活支援の理解		視覚障害に応じた介護 視覚障がい者体験(屋外白杖体験)			田丸	
	3	障害に応じた生活支援技術Ⅰー② 視覚障害		諏訪市社会福祉協議会で講話 ユニバーサルデザイングッズ、ユニバーサルデザインについて				
育	4	障害に応じた生活支援技術Ⅲー①		肢体不自由(脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ			登内	
	5	自立に向けた生活支援の理解		視覚障害に応じた介護 視覚障がい者当事者による講話			田丸	
6	障害に応じた生活支援技術Ⅰー③ 視覚障害							
内 容	7	障害に応じた生活支援技術Ⅲー②		内部障害 心臓機能障害(虚血性心疾患、心不全等)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。			登内	
	8	障害に応じた生活支援技術Ⅲー③		内部障害 呼吸機能障害(閉塞性肺疾患、機関紙喘息、肺炎等)に応じた介護について、生活の理解・自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。			登内	
	9	障害に応じた生活支援技術Ⅳー①		精神障害者の生活の理解、自立に向けた介護の留意点を学ぶ(精神疾患概論)			藤村	

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教	10	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－④	内部障害 腎臓機能障害(慢性腎不全、に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	登内
	11	障害に応じた生活支援技術Ⅳ－②	精神障害者の生活の理解、自立に向けた介護の留意点を学ぶ(統合失調症)	藤村
	12	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－⑤	内部障害 膀胱・直腸機能障害(消化器・尿路ストマ)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	登内
	13	障害に応じた生活支援技術Ⅳ－③	精神障害者の生活の理解、自立に向けた介護の留意点を学ぶ (気分障害・アルコール依存症)	藤村
育	14	自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅱ－①	聴覚障害に応じた介護 聴覚障がい者当事者による講話	田丸
	15	聴覚障害		
	16	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－⑥	内部障害 肝機能障害(肝炎、肝硬変)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	登内
	17	自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅱ－②	聴覚障害に応じた介護 手話講座 基礎編	田丸
18	聴覚障害			
内	19	障害に応じた生活支援技術Ⅳ－④	精神科デイサービスを見学、交流し、実際の精神障害者の生活の理解、自立に向けた介護の留意点を学ぶ DVDを通し精神障害者について考える	藤村
	20			
	21	障害に応じた生活支援技術Ⅳ－⑤	精神障害者の生活の理解、自立に向けた介護の留意点を学ぶ(強迫神経症、PTSD等)	藤村
	22	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－⑦	内部障害 HIVによる免疫機能障害)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	高山
容	23	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－⑧	内部障害 小腸機能障害(クローン病、バーチェット病等)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	高山
	24	障害に応じた生活支援技術Ⅳ－⑥	精神科デイサービスを見学、交流し、実際の精神障害者の生活の理解、自立に向けた介護の留意点を学ぶ DVDを通し精神障害者について考える	藤村
	25			
	26	人生の最終段階における介護	看取り支援	田丸
	27			
	28	自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅲ－①	内部障害に応じた介護 肢体不自由者当事者による講話	田丸
29	内部障害			

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教	30	障害に応じた生活支援技術Ⅳ－⑦	精神障害者の生活の理解・自立に向けた介護の留意点を学ぶ(評価・ケアプランの立て方など)	藤村
	31	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－⑨	高次脳機能障害に応じた介護に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	高山
	32	障害に応じた生活支援技術Ⅳ－⑧	精神障害まとめ	藤村
	33	自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅵ－① 介護を必要とする人の薬の基礎知識	薬の種類、飲み方、保管方法等を理解する。	藤森
	34	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－⑩	難病 筋委縮性側索硬化症(ALS)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	高山
	35	自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅵ－② 介護を必要とする人の薬の基礎知識	薬の種類、飲み方、保管方法等を理解する。	藤森
	36	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－⑪	難病 パーキンソン病に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	高山
	37	自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅲ－②	小学生、デイケア利用者との世代間交流準備	田丸
	38		小学生、デイケア利用者との世代間交流	田丸
	39			
40				
内	41	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－⑫	難病 関節リウマチに応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	高山
	42	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－⑬	内部障害、難病まとめ	登内、高山
	43	自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅵ－③ 介護を必要とする人の薬の基礎知識	認知症の人・ターミナル期の人の薬の知識を学ぶ。	藤森
	44	自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅵ－④ 介護を必要とする人の薬の基礎知識	薬のメカニズムを理解する。	藤森
	45	自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅵ－⑤ 介護を必要とする人の薬の基礎知識	薬のまとめ	藤森
	45			

教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
生活支援技術D	1	45	実習	必須	1年	通年	石原三妃 雨宮邦子

【授業の概要】
 ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた食生活及び衣生活の援助技術を身につける。
 資料に沿って講義と演習により授業を進める。

【学習到達目標】
 1 快適な衣生活を支える知識、技術を習得する。
 2 生活の継続性を支援する観点から、個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識や技術を習得する。

【成績評価方法】
 1 筆記試験結果、レポートによる評価
 2 授業態度
 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I (中央法規)
 2 参考図書
 食品成分表

【実務経験】

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教 育	1	自立に向けた家事の介護①	食中毒予防のための食品衛生や食材購入について学ぶ。 家事援助の意義と目的、食事・栄養の重要性について理解する。 食文化、食生活の変化について及び高齢者、障害者の調理栄養について理解する。	石原
	2			
	3			
	4	自立に向けた食事の介護②	基本的な調理技術を習得する。 献立作りのための栄養素の理解する。 高齢者の身体機能と調理の工夫を考える。	
	5			
	6			
	7			
	8	自立に向けた食事の介護③	基本的な調理技術を習得する。 病気と食事、治療食について理解を深める。	
	9			
	10			
	11	内 容	自立に向けた身じたくの介護①	
12				
13				
18	自立に向けた身じたくの介護②		素材の種類と性能について理解する。	
19				
14	自立に向けた家事の介護③		掃除、ゴミ捨て、衣類、寝具の衛生管理について考える。	
15				
16	自立に向けた家事の介護④	高齢者、障害者の身体特性、生活にあった被服について学ぶ。 被服の着脱の工夫について理解する。		
17				
20	自立に向けた家事の介護⑤	製作実習により、手縫いの方法、ミシンの操作方法、アイロンのかけ方を習得する。		
21				
22				
23				

教科目名	単位数	時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
介護過程A	2	30	講義	必修	1年	前期	遠山 由希

【授業の概要】

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践の習得に向けて、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解をする。

【学習到達目標】

- 1 介護過程とは、個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価することの連続であると理解する。
- 2 すべてのケアの方法や手順には意味と理由があり、それを説明できなければならないことを理解する。
- 3 把握すべき事実の内容を理解し、達成すべき生活課題の達成に向けて介護実践の内容を計画できるようになる。
- 4 他の科目で学習した知識や技術を統合し、ケアに活かすということの意味を理解する。

【成績評価方法】

- 1 筆記試験結果
- 2 授業態度
- 3 出欠席状況

【テキスト（教科書）・参考図書】

- 1 テキスト（教科書）
介護福祉士養成講座9 介護過程（中央法規）
- 2 参考図書
アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック（みらい）

【実務経験】

遠山講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。社会福祉士として福祉事務所での実務経験あり。

	回数	授業内容	各授業のねらい		備考
			教	育	
教	1	「介護過程」の意義と基本的理解①	介護過程の意義、目的を学び、介護過程の展開の基本的視点について理解する。		
	2	「介護過程」の意義と基本的理解②	介護過程の意義、目的を学び、介護過程の展開の基本的視点について理解する。		
3					
育	4	「介護過程」の展開① 介護過程の全体像とアセスメント	介護過程の全体像を理解し、アセスメントの目的・方法について学ぶ。		
	5				
育	6	「介護過程」の展開② 情報の解釈・関連づけ・統合化	情報収集の方法、情報の解釈、関連付け、統合化について学ぶ。		
	7				
内	8	「介護過程」の展開③ 課題の抽出と目標設定	生活支援の視点から導き出される課題と目標設定について学ぶ。		
	9	「介護過程」の展開④ 計画立案	介護計画を立案（目標の共有）する際の留意点、方法について学ぶ。		
10	介護計画の立案方法について理解する。				
容	11	「介護過程」の展開⑤ 支援の実施	立案した介護計画を実施する際の留意点と意義を学ぶ。		
	12				
容	13	「介護過程」の展開⑥ 評価	介護計画実施後の評価の意義と目的を学ぶ。		
	14				
	15	まとめ	これまでの学びを振り返り、知識の統合化・再確認をする。		

教科目名	単位数	時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
介護過程B	1	30	演習	必修	1年	通年	田丸美咲 木澤千波 遠山由希

【授業の概要】

介護過程の基礎的知識の習得を踏まえ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について学び、介護過程を展開できる能力を養う。演習形式の授業で実践的な力を養う。

- 1 介護過程は個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な手法であることを理解する。
- 2 利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の目標を達成していくために必要な介護のあり方を、演習を通して理解する。
- 3 情報の収集やアセスメントの内容によって、介護計画が異なるため、的確な情報収集やアセスメントの必要性を理解する。

【成績評価方法】

- 1 筆記試験結果
- 2 授業態度
- 3 出欠席状況

【テキスト（教科書）・参考図書】

- 1 テキスト（教科書）
介護福祉士養成講座9 介護過程（中央法規）
- 2 参考図書
アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック（みらい）

【実務経験】

田丸講師：看護師として病院での実務経験あり。
木澤講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。
遠山講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。

	回数	授業内容	各授業のねらい		備考
			教	育	
	1	「介護過程」の実践的展開①		プロセスレコードについて理解する。	
	2	「介護過程」の実践的展開②		インテークから情報収集について手法を学ぶ。	
	3				
	4	「介護過程」の実践的転回③		ICFの考え方を活用した情報収集の方法を理解する。	
	5	「介護過程」の実践的展開④		収集した情報の統合方法の実際を理解する。	
	6	「介護過程」の実践的展開⑤		整理、統合された情報から、生活課題を分析し明確化する。	
	7				
	8	「介護過程」の実践的展開⑥		目標を具体的に設定する意義を理解する。 目標を達成するための具体的な計画の立案とは何かを理解する。	
	9				
	10	「介護過程」の実践的展開⑦		カンファレンスの意義と目的を学ぶ。 事例から実施計画に対する評価方法について理解する。	
	11	「介護過程」の実践的展開⑧		実施記録（SOAP）、介護過程の要約について、考え方・記入方法を理解する。	
	12	「介護過程」の実践的展開⑨		介護計画を実施するための具体的な計画の立案とは何か理解する。 介護計画の実施状況を評価し、再アセスメントを行う意義を理解する。	
	13				
	14	「介護過程」の実践的展開⑩		事例から情報収集、課題分析、計画立案を行い、介護過程の展開方法について理解する。	
	15	まとめ		これまでの学びを振り返り、知識の統合化、再確認する。	

	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
介護過程C	3	90	講義	必修	1年	前期	田丸 美咲 木澤 千波 遠山 由希 清水 満子 北沢 将広

【授業の概要】
 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践の習得に向けて、入居施設において、個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるようにする。またチームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解できるようにする。

- 【学習到達目標】**
- 1 介護過程とは個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価することの連続であることを理解できる。
 - 2 利用者の生活の質の向上にむけて、生活上の目標を達成していくために、必要な支援の在り方を、演習を通じて理解できる。
 - 3 介護過程とは「なぜこのような支援が必要なのか」「なぜこのように行うのか」など、根拠となる思考過程と的確な記録が必要であることが理解できる。
 - 4 介護過程とは利用者にかかわるすべての関係職種が共通の目標をもち、介護職チーム及び他職種との協働・連携を図ることが大切であることが理解できる。カンファレンスの意義・目的を理解できる。

- 【成績評価方法】**
- 1 過程C演習でびき評価表による
 - 2 授業態度
 - 3 出欠席状況

- 【テキスト(教科書)・参考図書】**
- 1 テキスト(教科書)
介護福祉士養成講座9 介護過程 (中央法規)
 - 2 参考図書

【実務経験】
 田丸講師：看護師として病院での実務経験あり。
 木澤講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。
 遠山講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。
 清水講師：介護福祉士として高齢者施設での実務経験あり。
 北沢講師：介護福祉士として高齢者施設での実務経験あり。

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考					
教	1	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解①	学外演習に向けてのオリエンテーション	学内					
	2	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解②	入居施設において、個別の事例を受け持ち、介護過程の一連の展開を行い、実践を通して介護過程の展開を理解する。 アセスメント(意図的な情報収集、分析、ニーズの明確化、課題の抽出)	施設で学外演習					
	3								
	4								
	5								
	6								
	育	7	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解③	入居施設において受け持った事例について、介護過程の一連の展開を行い、実践を通して介護過程の展開を理解する。 実施(soap記録)、評価(評価の視点、再アセスメント、修正)、プロセスレコード	施設で学外演習				
		8							
		9							
		10							
		11	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解④			ここまでの展開した介護過程について振り返り、課題を整理し、計画立案(目標共有)	学内		
12									
13									
14									
15									
16									
内	17	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解⑤	入居施設において受け持った事例について、介護過程の一連の展開を行い、実践を通して介護過程の展開を理解する。 実施(soap記録)、評価(評価の視点、再アセスメント、修正)、プロセスレコード	施設で学外演習					
	18								
	19								
	20	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解⑥			入居施設において受け持った事例について、介護過程の一連の展開を行い、実践を通して介護過程の展開を理解する。 実施(soap記録)、評価(評価の視点、再アセスメント、修正)、プロセスレコード	施設で学外演習			
	21								
	22								
	23								
	24	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解⑦					入居施設において受け持った事例について、介護過程の一連の展開を行い、実践を通して介護過程の展開を理解する。 実施(soap記録)、評価(評価の視点、再アセスメント、修正)、プロセスレコード	施設で学外演習	
	25								
	26								
	27	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解⑧							入居施設において受け持った事例について、介護過程の一連の展開を行い、実践を通して介護過程の展開を理解する。 実施(soap記録)、評価(評価の視点、再アセスメント、修正)、プロセスレコード
28									
29									
30	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解⑨	入居施設において受け持った事例について、介護過程の一連の展開を行い、実践を通して介護過程の展開を理解する。 実施(soap記録)、評価(評価の視点、再アセスメント、修正)、プロセスレコード	施設で学外演習						
31									
32									
33	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解⑩			入居施設において受け持った事例について、介護過程の一連の展開を行い、実践を通して介護過程の展開を理解する。 実施(soap記録)、評価(評価の視点、再アセスメント、修正)、プロセスレコード	施設で学外演習				
34									
35									
36	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解⑪					入居施設において受け持った事例について、介護過程の一連の展開を行い、実践を通して介護過程の展開を理解する。 実施(soap記録)、評価(評価の視点、再アセスメント、修正)、プロセスレコード	施設で学外演習		
37									
38									
39	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解⑪							入居施設において受け持った事例について、介護過程の一連の展開を行い、実践を通して介護過程の展開を理解する。 実施(soap記録)、評価(評価の視点、再アセスメント、修正)、プロセスレコード	施設で学外演習
40									
41	介護過程とチームアプローチ	多職種連携における介護過程展開を展開する意義、目的の理解 施設でカンファレンスの実施							
42									
43	介護過程の実践的理解まとめ								
44									
45									

教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
介護総合演習	2	60	演習	必須	1年	通年	田丸美咲 木澤千波 遠山由希

【授業の概要】
 各教科目で学ぶ知識と技術を統合し、介護実践の科学的探究を通して介護実習での学びを深める。
 各実習を振り返り、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習の場とする。
 各実習の学びについてグループワークを実施し、学びのまとめ、発表をする。
 総合実習で担当した対象者について事例研究を行い、資料作成や発表をすることで互いに学び合う。

【学習到達目標】
 1 実習の意義や目的について理解し、各教科目で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげる。
 2 実習を振り返り、知識と技術の統合化を図るとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての姿勢を身につける。
 3 事例研究の意義とその方法について理解し、質の高い介護実践やエビデンス構築の能力を身に付ける。

【成績評価方法】
 1 課題提出状況
 2 授業態度
 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 介護総合演習(中央法規) 介護実習のてびき
 2 参考図書
 各種専門誌(必要に応じて)

【実務経験】
 田丸講師: 看護師として病院での実務経験あり。
 木澤講師: 介護福祉士として施設での実務経験あり。
 遠山講師: 介護福祉士として施設での実務経験あり。

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教 育 内 容	1	介護実習とは 実習の意義、目的	実習の意義、目的を理解する。	
	2	高齢者施設実習のオリエンテーション	高齢者施設実習の目的、実習内容を理解する。	
	3	高齢者施設実習事前確認	実習先の概要や実習方法を理解する。 高齢者施設実習の目的、実習内容を理解する。	
	4	知識と技術の統合 (高齢者施設実習まとめ)	実習を振り返り、自己の課題を明確にする。	
	5			
	6	地域生活支援実習オリエンテーション①	小規模多機能型居宅介護について理解する。	
	7			
	8	地域生活支援実習オリエンテーション②	地域生活支援実習の目的、実習内容を理解する。	
	9	地域生活支援事前確認	実習先の概要や実習方法を理解する。 地域生活支援実習の目的、実習内容を理解する。	
	10	知識と技術の統合 (地域生活支援実習まとめ)	地域生活支援実習での学びをまとめ、今後の課題を確認する。	
	11			
	12	施設実習オリエンテーション	施設実習の目的、実習内容を理解する。	
	13	施設実習事前確認	実習先の概要や実習方法を理解する。 施設実習の目的、実習内容を理解する。	

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教	14	知識と技術の統合 (施設実習中間まとめ)	介護過程におけるアセスメント、計画立案の 実際を学ぶ。 具体的な記録の方法を学び実践力を身に付 ける。	
	15			
	16			
	17			
育	18	知識と技術の統合 (施設実習まとめ)	実習での学びをまとめ、今後の課題を確認 する。 担当事例の介護過程展開のまとめをする。	
	19			
	20	知識と技術の統合 (施設実習要約発表)		
	21			
内	22	総合実習オリエンテーション	総合実習の目的、実習内容を理解する。	
	23	事例研究オリエンテーション	事例研究の意義、目的を理解する。	
	24	総合実習事前確認	実習先の概要や実習方法を理解する。 総合実習の目的、実習内容を理解する。	
	25	知識と技術の統合 (総合実習まとめ)	総合実習での学びをまとめ、今後の課題を 確認する。	
	26	知識と技術の統合 (1年間の実習のまとめ)	知識や技術を介護実践と結びつけて統合さ せ、自己の課題を明確にする。	
	容	27	介護実践の科学的探究	実践研究の意義を理解し、介護実践のエビ デンス構築について考える。 実践研究の結果を効果的にまとめ、資料作 成を含めた理解しやすいプレゼンテーション について学ぶ。 実践研究の発表。
28				
29				
30				

教科目名	単位数	時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
介護実習	5	225	実習	必須	1年	通年	田丸美咲 木澤千波 遠山由希

【授業の概要】

介護の実践を通じて、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、介護技術の確認、多職種協働や関係期間との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。個別ケアを行うための介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった介護過程の展開を理解し、他科目で学習した知識や技術を統合させ、具体的な介護サービスの基本となる実践力を身につける。

【学習到達目標】

- 1 介護福祉利用者主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。
- 2 ケースカンファレンスやサービス担当者会議を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。
- 3 地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。
- 4 各領域で習得した知識と技術の統合を図り、介護に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。
- 5 介護福祉士の役割を理解し、自らの介護観を形成すると共に、社会人及び職業人としての基礎を養う。

【成績評価方法】

実習のてびき評価表による

【テキスト（教科書）・参考図書】

- 1 テキスト（教科書）
介護福祉士養成講座9 介護過程（中央法規）
介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規）
- 2 参考図書

【実務経験】

田丸講師：看護師として病院での実務経験あり。
木澤講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。
遠山講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。

	授業内容	各授業のねらい	備考
教 育	実習1 1 高齢者実習 対象施設：特別養護老人ホーム 介護老人保健施設 認知症対応型共同生活介護 実習時間：18時間 （6h×3日） 2 地域生活支援実習 対象施設：訪問介護事業所（18h：6h×3日） 通所介護事業所（21h：7h×3日） 又は 小規模多機能型居宅介護 （39h：6h×3日+7h×3日） 実習時間：39時間 （6h×3日+7h×3日）	①個別ケアの実践 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解する。 ②地域における生活支援の実践 利用者と地域との関りを理解し、地域生活支援の視点について学ぶ。 ③コミュニケーションの実践及び介護技術の習得 利用者・家族とのコミュニケーションの実践をすると共に、基礎的な介護技術の習得をする。 ④多職種協働の実践 他職種共同や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。	
	実習2 対象施設：特別養護老人ホーム 介護老人保健施設 障害者支援施設 救護施設 認知症対応型共同生活介護 1 施設実習 実習時間：76時間 （6h×10日+8h×2日） 2 総合実習 実習時間：92時間 （6h×14日+8h×1日）	①個別ケアの実践 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解する。 ②介護過程の展開 利用者の課題を明確にし、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開する。 ③多職種協働の実践 ケースカンファレンスやサービス担当者会議に参加し、多職種連携やチームケアについて学ぶ。 ④介護実践力の習得 他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を習得する。	
内 容			

教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
こころとからだのしくみ	2	30	講義	必修	1	通年	松山 徹 花野 希久美
	1	30	演習				

【授業の概要】

介護に必要な観察力、判断力の根拠となるこころとからだのしくみの基礎を学ぶ。その知識の基に、利用者の生活を支える介護実践との関係を学ぶ。また、終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。

【学習到達目標】

- 1 介護実践に必要な観察力・判断力の基礎となるからだのしくみの基礎的な根拠・知識を理解する。
- 2 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。
- 3 人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を理解する。

【成績評価方法】

- 1 筆記試験結果
- 2 小テスト結果
- 3 授業態度
- 4 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ (中央法規)
しくみと病気がわかるからだの事典 (成美堂出版)
- 2 参考図書

【実務経験】

松山講師：理学療法士として病院での実務経験あり。
花野講師：看護師として病院での実務経験あり。

教 育 内 容	回数	授業内容	各授業のねらい	形式	備考
	1	こころとからだのしくみ I からだのしくみの理解 ① (骨格系解剖生理①)	身体各部位の名称、働きを理解する。	講義	松山
2	こころとからだのしくみ I こころのしくみの理解 ①	「健康」「こころ」とは何か。 「健康な状態」とはどんなことか理解する。 人間の欲求、自己実現と尊厳、脳・認知・学習・ 記憶・適応のしくみ	講義	花野	
3					
4	こころとからだのしくみ I からだのしくみの理解 ③ (骨格系解剖生理②)	身体各部位の名称、働きを理解する。	講義	松山	
5	こころとからだのしくみ I からだのしくみの理解 ②	身体各部位の名称 (神経系、感覚器、内臓、呼吸器、循環器、消 化器)	演習	花野	
6					
7	こころとからだのしくみ I からだのしくみの理解 ⑤ (筋系解剖生理①)	身体各部位の名称、働きを理解する。	講義	松山	
8	こころとからだのしくみ I からだのしくみの理解 ⑥ (筋系解剖生理②)	身体各部位の名称、働きを理解する。	講義	松山	

	回数	授業内容	各授業のねらい	形式	備考
教	9	こころとからだのしくみⅠ からだのしくみの理解 ⑧ (神経系解剖生理、ボディメカニクス、 関節可動域)	身体の構造と機能的な働きについて力学的に 理解する。	講義	松山
	10	こころとからだのしくみⅠ からだのしくみの理解 ④	身体各部位の名称 (生殖器・内分泌、血液・体液・リンパ)	講義	花野
	11			演習	
	12	こころとからだのしくみⅠ からだのしくみの理解 ⑦	生命を維持するしくみ バイタルサインの観察や測定方法を理解し、実 際に経験する。	演習	花野
	13			演習	
	14	こころとからだのしくみⅡ 移動に関連したこころとからだのしくみ	移動の仕組み、心身の機能低下が移動に及ぼ す影響、変化の気づきと対応について理解す る。	講義	花野
	15			演習	
	16	こころとからだのしくみⅡ 身じたくに関連したこころとからだのしく み	身じたくに関連した仕組み心身の機能低下が 身支度に及ぼす影響、変化の気づきと対応に ついて理解する。	講義	花野
	17			演習	
	18	こころとからだのしくみⅡ 食事に関連したこころとからだのしくみ	食事に関連したこころとからだのしくみ、心身の 機能が食事に及ぼす影響、変化と気づきと対 応について理解する。	講義	花野
	19			演習	
	20	こころとからだのしくみⅡ 入浴・清潔保持に関連したこころとから だのしくみ	入浴・清潔保持のしくみ、心身の機能低下が入 浴・生活保持に及ぼす影響、変化の気づきと対 応について理解する。	講義	花野
	21			演習	
	22	こころとからだのしくみⅡ 排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄の仕組み、心身機能低下が排泄に及ぼす 影響、変化の気づきと対応について理解する。	講義	花野
23	演習				
24	こころとからだのしくみⅡ 休息・睡眠に関連したこころとからだのし くみ	睡眠のしくみ、心身機能低下が睡眠に及ぼす 影響、変化の気づきと対応について理解する。 中間試験による学びの確認をする。	講義	花野	
25			演習		
26	人生の最終段階のケアに関連したこ ころとからだのしくみ	「死」を理解する。終末期から「死」までの変化と 特徴。「死」に対する心の理解について学ぶ。 医療職との連携ポイントについて理解する。	講義	花野	
27			演習		
28	薬剤の使用行為と創の処置などの基礎 知識	介護職が実施できる処置についてからだの仕 組みをふまえて理解する。	演習	花野	
29			演習		
30	まとめ	まとめ	講義	花野	

教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
発達と老化の理解	2	30	講義	必修	1年	通年	松本宙明 矢崎久
【授業の概要】							
人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響について理解する。またライフサイクルの特徴に応じた生活に及ぼす影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を学習する。							
【学習到達目標】							
1 人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する。 2 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられう疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解する。							
【成績評価方法】							
1 筆記試験結果 2 授業態度 3 出欠席状況							
【テキスト(教科書)・参考図書】							
1 テキスト(教科書) 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 (中央法規) 人体のしくみと病気(西東社) 2 参考図書							
【実務経験】							
松本講師:医師として、病院での実務経験あり。 矢崎講師:臨床心理士、精神保健福祉士として、病院での実務経験あり。							
教 育 内 容	回数	授業内容		各授業のねらい			備考
	1	高齢者の症状・疾患と生活上の留意点①		高齢者に多い疾患と症状を理解する。 脳神経系疾患			松本
	2	高齢者の症状・疾患と生活上の留意点②		高齢者に多い疾患と症状を理解する。 循環器疾患			松本
	3	人間の成長と発達の基礎的知識①		発達段階と発達課題			矢崎
	4	人間の成長と発達の基礎的知識②		成長・発達の考え方(スキヤモン)、成長・発達に影響する要因(成熟優位説、学習説、輻輳説等)			
	5	高齢者の症状・疾患と生活上の留意点③		高齢者に多い疾患と症状を理解する。 呼吸器疾患			松本
	6	老年期の特徴と発達課題		老年期の定義、老年期の発達課題、老年期をめぐる今日的課題			矢崎
	7	老化にともなうところとからだの変化と生活		老化にともない身体的・心理的・社会的な変化と生活への影響、老化に伴う身体的変化と生活への影響			
	8	発達段階別にみた特徴的な疾病や障害①		発達理論(ピアジェ、エリクソン等)、発達段階と発達課題、身体的・心理的・社会的機能の発達、心理療法(コラージュ、バウムテスト等)			矢崎
	9	発達段階別にみた特徴的な疾病や障害②					
	10	高齢者の症状・疾患と生活上の留意点④		高齢者に多い疾患と症状を理解する。 消化器疾患			松本
	11	高齢者と健康		健康21、サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング、アクティブエイジング等 高齢者の症状・疾患の特徴(廃用症候群、老年症候群)			矢崎
	12						
	13	高齢者の症状・疾患と生活上の留意点⑤		高齢者に多い疾患と症状を理解する。 腎・泌尿器疾患			松本
	14	高齢者の症状・疾患と生活上の留意点⑥		高齢者に多い疾患と症状を理解する。 内分泌・代謝疾患			松本
15	高齢者の症状・疾患と生活上の留意点⑦		高齢者に多い疾患と症状を理解する。 悪性新生物、感染症、皮膚・感覚器疾患			松本	

教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
認知症の理解	2	30	講義	必修	1	通年	八田 桂子
	1	30	演習				

【授業の概要】
 認知症の本質や認知症の人の心理状態、症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できる知識を持つ。また認知症の有無にかかわらず重要な自立支援・自律支援尊厳の保持について考える。また本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解する。

【学習到達目標】

- 1 認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会環境について理解する。
- 2 医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化を理解し、生活支援の根拠となる知識を理解する。
- 3 認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、本人主体の認知症ケアの実践につなげる。
- 4 認知症の人のサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解する。
- 5 認知症の人を支える家族の課題を理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐ。

【成績評価方法】

- 1 筆記試験結果
- 2 授業態度
- 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 (中央法規)
 実践パーソン・センタード・ケア(株式会社ワールドプランニング)
- 2 参考図書

【実務経験】
 認知症ケア専門士、長野県認知症介護指導者、介護支援専門員、介護福祉士、社会福祉士として、高齢者施設等での実務経験あり。

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
	教	1	認知症のある高齢者の現状と今後 認知症とは何か	認知症の定義、生活障害などの症状の全体像を理解する
2		演習		
育	3	脳のしくみ	脳の構造・機能を踏まえた病理的な理解 認知症と間違えられやすい症状 病気と老化の理解	講義
	4			演習
内	5	認知症の人の心理	認知症の人の心理と症状 生活障害の理解	講義
	6			演習
容	7	認知症の症状・診断・治療・予防①	中核症状の理解、生活障害の理解	講義
	8			演習
	9	認知症の症状・診断・治療・予防②	B P S Dの理解、診断と重症度	講義
	10			演習

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考	
教	11	認知症の症状・診断・治療・予防③	原因疾患別の理解とケアの実際 認知症の治療薬	講義	
	12			演習	
	13	認知症の症状・診断・治療・予防④	認知症の予防の考え方と実際	講義	
	14			演習	
育	15	認知症ケアの歴史と理念①	認知症の人を取り巻く状況、理念と視点を理解する	講義	
	16			演習	
	17	認知症ケアの歴史と理念②	認知症当事者の視点からみえるもの	講義	
	18			演習	
	19	認知症ケアの実際①	認知症の人に適した生活環境と支援 パーソンセンタードケアとアセスメント	講義	
	20			演習	
	内	21	認知症ケアの実際②	認知症の人のコミュニケーションや食事、排泄、入浴などのケアの実際	講義
		22			演習
23		認知症ケアの実際③	終末期ケアとは何か 認知症の人の終末期医療と介護連携	講義	
24				演習	
容	25	介護者支援	家族の理解、レスパイトケア 介護福祉職のモラル、チームケア	講義	
	26			演習	
	27	認知症の人の地域生活支援	介護保険制度 新オレンジプラン 地域包括ケアシステム 多職種連携について	演習	
	28			演習	
	29	解説・まとめ	これからの認知症ケア、介護福祉士の果たす役割 試験による授業評価を行い、学びの集大成とする	講義	
	30			講義	

教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
障害の理解	1	30	演習	必修	1	前期	田丸 美咲

【授業の概要】
 介護と医療の連携をふまえた実践力を向上するために、障害のある人の身体機能や心理を理解し、家族や地域を含めた障害のある人の生活支援について学習する。

- 【学習到達目標】**
- 1 障害の概念や定義、障害者福祉の基本理念および関連制度の概要を理解し、介護福祉職として必要な基礎知識を説明できる。
 - 2 各障害種別の身体的・心理的特性を理解し、それぞれの生活上の課題や支援ニーズについて説明できる。
 - 3 障害のある人の自立に向けた生活支援の視点を理解し、生活全体を踏まえた支援の基本的な考え方を説明できる。
 - 4 障害のある人の地域生活を支える社会資源や関係機関の役割を理解し、多職種連携およびチームアプローチの意義を説明できる。
 - 5 障害のある人を支える家族の役割と課題を理解し、家族支援のあり方および障害福祉に関する制度や地域支援体制の概要を説明できる。

- 【成績評価方法】**
- 1 筆記試験結果
 - 2 授業態度
 - 3 出欠席状況

- 【テキスト(教科書)・参考図書】**
- 1 テキスト(教科書)
 介護福祉士養成講座14 障害の理解 (中央法規)
 - 2 参考図書

【実務経験】
 看護師として、病院・施設での実務経験あり。

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教 育 内 容	1	障害の基本的理解 障害の理解の全体像	本科目の目的と学習内容の概要を理解し、障害のある人を支援する意義を考える	
	2	障害別の基本的理解と特性に応じた支援Ⅰ 視覚障害	視覚障害の特性と日常生活上の支援を理解する	
	3	障害別の基本的理解と特性に応じた支援Ⅰ 聴覚・言語障害	聴覚・言語障害の特性とコミュニケーション支援を理解する	
	4	障害別の基本的理解と特性に応じた支援Ⅰ 視覚障害	視覚障害の特性と日常生活上の支援を理解する	
	5	障害別の基本的理解と特性に応じた支援Ⅰ 聴覚・言語障害	聴覚・言語障害の特性とコミュニケーション支援を理解する	
	6	障害別の基本的理解と特性に応じた支援Ⅰ 肢体不自由	肢体不自由の特性と生活上の困難、支援方法を理解する	
	7	障害別の基本的理解と特性に応じた支援Ⅰ 重複障害・重症心身障害	重複障害の特性と包括的支援の必要性を理解する	
	8	障害別の基本的理解と特性に応じた支援Ⅰ 内部障害	内部障害の特性と健康管理を含む支援を理解する	
	9	障害別の基本的理解と特性に応じた支援Ⅱ 知的障害・発達障害・精神障害	知的障害・発達障害・精神障害の特性と生活支援の方法を理解する	
	10	障害別の基本的理解と特性に応じた支援Ⅱ 高次脳機能障害	高次脳機能障害の特徴と生活上の課題を理解する	
	11	障害別の基本的理解と特性に応じた支援Ⅱ 難病	難病の特性と長期的支援の必要性を理解する	
	12	障害の概念と障害者福祉の基本理念Ⅲ 障害の概念・定義	障害の捉え方やモデル、ノーマライゼーション・インクルージョン等の基本理念の理解	
	13	障害の概念と障害者福祉の基本理念Ⅲ 障害福祉の基本理念・制度	障害者福祉の理念と関連制度の概要を理解する	
	14	家族への支援・障害のある人の心理	家族の障害の受容の過程、レスパイト、家族会、当事者団体等	
	15	連携と協働	地域におけるサポート体制、多職種連携と協働	

教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
医療的ケア I (概論)	1	15	講義	必修	1年	通年	田丸 美咲

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるため、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

【学習到達目標】

- 1 介護福祉士の業務として位置付けられた喀痰吸引・経管栄養について、法改正の趣旨および制度の内容を説明できる。
- 2 医療的ケアの基本的な考え方を理解し、リスクマネジメントを基盤とした安全・適切な医療的ケアの実施方法を説明できる。
- 3 医療職との連携の重要性と、利用者の安全で安楽な日常生活を支える介護福祉士の役割を理解し、実践につなげることができる。

【成績評価方法】

- 1 筆記試験結果
- 2 授業態度
- 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
介護福祉士養成講座15 医療的ケア (中央法規)
- 2 参考図書

【実務経験】

看護師として、病院・施設での実務経験あり。

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教 育	1	医療的ケア実施の基礎 I 医療的ケアとは	医療的ケアを実施の基礎（背景、医行為、喀痰吸引等制度）が理解できる。	
	2	医療的ケア実施の基礎 I 医療的ケアを安全に実施するためには	医療的ケアを実施の基礎（医療の倫理、医療行為）が理解できる。	
	3	安全な療養生活 II 救急蘇生法とは	救急蘇生法	
	4	安全な療養生活 II リスクマネジメント	リスクマネジメントの必要性とヒヤリハットの報告が予防につながる事が理解できる。	
内 容	5	清潔保持と感染予防 III 感染予防の基礎知識	感染予防の基礎知識を学び理解できる 正しい手洗い方法、手袋の装着方法等が理解できる。	
	6	清潔保持と感染予防 III 消毒と滅菌	療養環境の清潔保持と排泄物、吐物等の処理方法、消毒方法、滅菌と消毒について理解できる。	
	7	健康状態の把握	バイタルサインの測定方法が理解でき、急変時と対応について理解できる。	
	8	まとめ	医療的ケア実施の基礎が理解できる。	

教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
医療的ケアⅢ (経管栄養)	2	30	講義	必修	1年	通年	横川 孝子

【授業の概要】

経管栄養の必要な人の安全で安楽な生活を支えるため、医療職との連携のもとで、安全・適切に実施できるように、必要な知識・技術を学ぶ。

【学習到達目標】

経管栄養の根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する。

【成績評価方法】

- 1 筆記試験結果
- 2 授業態度
- 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
介護福祉士養成講座15 医療的ケア (中央法規)
- 2 参考図書

【実務経験】

看護師として病院での実務経験あり。

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教	1	経管栄養の基礎知識 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	消化器のしくみとはたらき ・消化器系器官の役割・機能を説明できる ・嚥下の仕組みを理解できる。	
	2	経管栄養の基礎知識 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	消化・吸収について よくある消化器の症状について理解できる。	
	3	経管栄養の基礎知識 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	経管栄養とは 経管栄養が必要な状態、経管栄養のしくみと種類が理解できる。	
	4	経管栄養の基礎知識 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	注入する内容に関する知識 ・栄養摂取と水分摂取の必要性を説明できる ・経管栄養で注入する内容が理解できる。	
育	5	経管栄養の基礎知識 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	経管栄養の実施上の留意点が理解できる。	
	6	経管栄養の基礎知識 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	子どもの経管栄養の実施上の留意点が理解できる。	
	7	経管栄養の基礎知識 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	子どもの経管栄養に必要なケアが理解できる。	
	8	経管栄養の基礎知識 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	利用者、家族の経管栄養に対する気持ちを理解し、気持ちに添った対応、説明と同意が理解できる。	
内	9	経管栄養の基礎知識 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	経管栄養にかかわる感染予防、安全確認について理解できる。	
	10	経管栄養の基礎知識 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認が説明できる。	
	11	経管栄養の基礎知識 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	急変・事故発生時の対応と事前対策 緊急を要する状態、症状と対応、医療職との連携と事前対策、報告と記録について理解できる。	
容	12	経管栄養の実施手順 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説①	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持について説明できる。	
	13	経管栄養の実施手順 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説②	経管栄養の技術と留意点について説明できる。	
	14	経管栄養の実施手順 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説③	経管栄養に必要なケア（消化機能を促進する、体位を整える、口腔・鼻腔内、胃瘻部のケア）の必要性を説明できる。	
	15	経管栄養の実施手順 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説④ まとめ	報告および連絡方法、記録の意義・記録内容が説明できる。まとめ	

教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
医療的ケアIV (演習評価)	1	15	講義	必修	1年	通年	田丸美咲 渡辺邦子 横川孝子 宮坂さゆり 大津小百合 花野希久美

【授業の概要】
 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるため、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

【学習到達目標】
 1 医療的ケアにおいて、喀痰吸引・経管栄養に関して、正確で安全な方法を習得できる
 2 喀痰吸引・経管栄養の演習評価基準に達することができる
 3 救急蘇生法が習得できる

【成績評価方法】
 1 筆記試験結果
 2 授業態度
 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 介護福祉士養成講座15 医療的ケア (中央法規)
 2 参考図書

【実務経験】
 田丸講師：看護師として病院・施設での実務経験あり。
 渡辺講師：看護師、呼吸療法認定士として病院での実務経験あり。
 横川講師：看護師として病院での実務経験あり。
 宮坂講師：看護師として病院での実務経験あり。
 大津講師：看護師として病院での実務経験あり。
 花野講師：看護師として病院での実務経験あり。

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
	教 育	1	演習 経管栄養 ・胃ろう 5回以上 ・経管栄養 5回以上	経管栄養で、最終評価で全項目が確実に実施できる。
2				
3				
内	4	救急蘇生法	救急蘇生法を習得でできる。	
	5			
容	6	演習 喀痰吸引 ・口腔吸引 5回以上 ・鼻腔吸引 5回以上 ・気管カニューレ 5回以上	喀痰吸引で、最終評価で全項目が確実に実施できる。	
	7			
	8			